

人間と生物圏（MAB）計画国際諮問委員会からの勧告要旨 （「甲武信」）

○甲武信は、関東山地を取り囲む広大な山脈地域である。同地域の中心には奥秩父主脈があり、雲取山から甲武信ヶ岳・金峰山まで山脈が広がっている。奥秩父主脈は、少なくとも 2,000 メートル以上の高さを誇る 20 以上の峰から成る山脈で、域内に活火山は存在しない。また、同地域は、荒川、多摩川、笛吹川、千曲川を含む主要な河川の水源地として機能している。

○推薦される地域は、全体で 190,603ha の広さを誇り、核心地域 13,364ha、緩衝地域 70,858ha、移行地域 106,381ha から成る。

○同地域の植物の多様性は豊かな地層と岩石の種類によるものであり、この多様な環境に生息する動物もまた豊富であり、日本国内で観測される 320 種類の蝶のうち、24 種の絶滅危惧種を含む 126 種類の蝶が観測されており、推薦地域を希少な種の宝庫とたらしめている。

○長野県に位置する緩衝地域は千曲川の上流に位置し、明治時代には、同地域で生成されたカラマツが国内のみならず、韓国・満州からヨーロッパに至るまで海外マーケットでも広く販売されていた。山梨県に位置する移行地域では、ブドウ、カキ、モモが江戸時代より栽培されており、同地域で生産された果樹は高価なものとして捉えられ、日本における主要な果樹生産地として認識されている。長野県に位置する移行地域は、農地として利用されており、レタスや白菜といった高原野菜を生産していることで有名である。

○金峰山、三峯山を含む主脈に連なる山々は崇拜の対象であり、同地域の修験道の信仰者や神社は、古くから守られてきた環境を保護するため、木々の伐採を禁じている。

○推薦地域は、大学と機能的な協力体制と連携体制を築いている。

○推薦地域の総人口は、213,321 名（核心地域 14 名、緩衝地域 1,371 名、移行地域 211,936 名）で、人口減少や農業、林業といった地場産業の後継者育成が課題となっており、エコパークが同地域の活性化を担うことが期待される。

○推薦地域の概要に加え、経営プランにおいては、人間と生物圏（MAB）計画が目指す仕組みを確実なものとするための、生物多様性保護に向けた基本的な政策、学術研究、持続可能な活用、さらにはエコパークの活動プラン及び構想を促進するための組織体系が提示されている。

○水源としてのエコシステムを保全し、林産物をはじめ天然資源を持続的に活用する努力をしていることを評価し、生物圏保存地域として登録することを勧告する。